



校長室だより

月立小学校 校長 鹿野田忠之
令和3年11月26日 発行
第 8 号

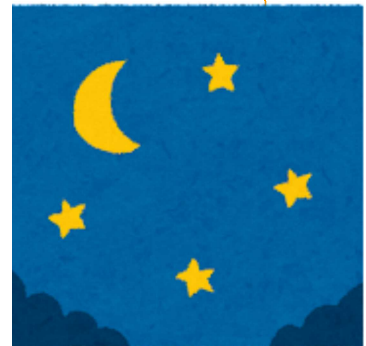
一人一人が輝けるように

朝晩、めっきり冷え込んできました。紅葉できれいだった八瀬の山々もすっかり紅葉が終わり、冬になるのを待っているかのようです。そんな中ですが、子供たちは冬休み前の学校生活を頑張っています。勉強、運動、学校行事…精一杯の子供たちを見ていると、「自分も負けていられないな」という思いにさせられます。

さて、最近私が出会い、いろいろと考えさせられた詩を紹介します。

どの子ども子どもは星

みんなそれぞれがそれぞれの光をいदैて まばたきしている
ぼくの光を見てくださいとまばたきしている
わたしの光も見てくださいとまばたきしている
光を見てやろう まばたきに 応えてやろう
光を見てももらえないと 子どもの星は光を消す まばたきをやめる
まばたきをやめてしまおうとしはじめている星はいないか
光を消してしまおうとしている星はいないか
光を見てやろう まばたきに 応えてやろう
そして
やんちゃな者からは やんちゃ者の光
おとなしい子からは おとなしい子の光
気のはやい子からは 気のはやい子の光
ゆっくりやさんからは ゆっくりやさんの光
男の子からは 男の子の光
女の子からは 女の子の光
天いっぱい 子どもの星を かがやかせよう



この詩は、教育学者である東井義雄（とうい よしお）（明治45年ー平成3年）さんが書いたものです。小学校教員を経て教育学者になった人なので、私たち教員に向けてのメッセージが強く表れている詩だと思いますが、子供に関わる全ての大人が意識してもよいことではないかと感じました。

「光を見てももらえないと 子どもの星は光を消す まばたきをやめる」という一文に、はっとさせられました。「私自身は、子供たちの光を見てきたらうか?」「子供のまばたきを消してはこなかったらうか?」この詩との出会いは、これまでの自分自身を見つめ直してみるよい機会となりました。

一人一人の子供がもつ光をしっかりと見極め、そのよさを十分に引き出し、より一層輝きを増すことができるよう支援していくことが、子供に関わる全ての大人たちの役目ではないかと感じている毎日です。

月立っ子ギャラリー

今月も子供たちは楽しく、そして一生懸命学校生活を送りました。
子供たちの元気な様子を御覧ください。

ホームページでは、子供たちの様子を毎日公開しています。ぜひ
そちらも御覧ください。



全校児童で花壇の植栽活動



軽トラ市で焼きいもを販売



気仙沼スローフェスタで鹿踊演舞



新城小学校と交流【1年生】



やまびこ杯フットサル交歓大会 見事2連覇！



月立子どもフェスティバル開催